

# 昭和

SHOWA  
Day by Day

第

7

巻

## 廃墟からの出発

昭和20年  
21年

★★

210.75

社

7

# 昭和二万日の 全記録



# 米軍、ルソン島に上陸。 小磯首相が演説 「断乎国体を護持」

昭和20年

1月

1945年

昭和・第7巻……廃墟からの出発

8月 大安  
◎4◎4  
◎1◎2  
◎1◎8  
◎1◎5  
◎2◎6

● 東海道本線名古屋―枇杷島間で貨物列車の追突事故。二〇両が脱線、六両が焼失。  
● 大審院検事局、経済検事を招集して、日雇い労働者に対する闇賃金の取り締まり強化を要望(九日まで)。  
● 仙台鉄道局、八日、九日、貨車三五両の木炭専用列車を編成、東京に一日一万七五〇〇俵を輸送。

9日 赤口 火  
◎5◎3  
◎2◎1  
◎1◎7  
◎1◎8  
◎2◎9

● 米大統領ルーズベルト、議会で総額八三〇億ドルの予算教書を送付。「全力を対日戦に傾注」とのべる。  
● 米軍、ルソン島に上陸開始(二月三日、マニラに侵入)。  
● 陸軍最初の海上挺進一二戦隊は、ルソン島、リンガエンの米輸送船団に爆雷攻撃。隊員七八名玉碎。

10日 先勝 水  
◎6◎3  
◎2◎0  
◎1◎6  
◎2◎5  
◎3◎10

● 警視庁は、管下の各署警防主任に対し、防空能力者・防空資材の点検を中心に戸口調査を指示。  
● 米陸軍次官パターソン、下院陸軍委員会、一八、四五歳までの男子を軍務に動員する法律を希望。

11日 友引 木  
◎16◎5  
◎1◎2  
◎1◎3  
◎1◎6  
◎4◎10

● 最高戦争指導会議で緊急措置要綱を決定、本土決戦を予期する防衛措置を進めることになる。  
● 岩手県大川目国民学校の全生徒が、空襲の罹災者にと一握りずつ持ち寄った煎り豆一俵、東京に到着。

12日 先負 金  
◎7◎0  
◎3◎3  
◎2◎8  
◎4◎5  
◎4◎6

● 情報局、五大決戦施策を発表。防空強化・軍需品増産・食糧増産・勤労強化・所在物資の戦力化の五つ。  
● 回天特別攻撃隊、ニューギニアのアドミラルティ諸島・アメリカ西部のフィンボルト湾などに停泊中の米艦船を攻撃(第二次玄作戦)。

13日 凶減 土  
◎5◎3  
◎2◎4  
◎4◎8  
◎2◎5  
◎2◎10

● 東海地方に大地震(三河大地震)。M六・七。死者一九六一名、家屋の全半壊一万七〇〇〇戸。  
● 中等学校以上の学校では教職員を補佐、学生が輪番制で夜間防空体制をとるよう文部省が通達。

14日 赤口 日  
◎4◎3  
◎3◎3  
◎2◎7  
◎0◎9  
◎6◎6

● B29七三機、名古屋の三菱重工を爆撃。伊勢豊受大神宮も被弾し、斎館と神楽殿が崩壊。  
● 接着剤と耐水合板で建造された「釘なし船」第一号南丸が、必需物資を積んで東京・芝浦に回航。

15日 先勝 月  
◎8◎6  
◎3◎2  
◎2◎7  
◎3◎5  
◎3◎3

● 外務省、在米抑留邦人一六五三名の氏名を調査完了して発表。  
● 東京鉄道局で灯火管制方式の変更を決定。空襲警報中すべて消灯していた信号灯の最小限を残すことなど。

16日 友引 火  
◎9◎8  
◎3◎3  
◎1◎9  
◎2◎4  
◎1◎2

● 文部省、学術研究会議整備要綱を発表(科学技術研究の戦力化の徹底など)。  
● 科学技術審議会は、「航空機増産へ切削工具の急速整備が必要」などの内容を陸海軍大臣に答申。  
● B29一機、京都市内を初空襲。死亡四一名、罹災七二九名。

17日 先負 水  
◎8◎7  
◎2◎1  
◎0◎4  
◎1◎4  
◎1◎2

● 中華民国主席代理陳公博から東京へ五〇〇トの砂糖贈与の目録贈られる。都民一人二〇匁(七五グラ)の計算。  
● 第四航空軍司令官富永恭次、独断で戦闘司令所をフィリピンから台湾へ移動(のちに問題化し予備役に)。

18日 凶減 木  
◎18◎5  
◎3◎2  
◎3◎4  
◎0◎4  
◎0◎1

● 大日本婦人会東京都支部、三人以上「荒鷲」(軍の航空要員)を育てた母親二二名を表彰。  
● 最高戦争指導会議、本土決戦態勢の確立を内容とした「今後採るべき戦争指導大綱」を決定。

19日 大安 金  
◎10◎3  
◎4◎1  
◎2◎6  
◎0◎5  
◎2◎3

● 政府、物価対策強化のため戦時物価審議会の設立を決定。会長に小磯首相。  
● 阪神地区にB29六九機来襲。川崎航空機の明石工場が爆撃の目標となる。

20日 赤口 土  
◎5◎8  
◎2◎1  
◎2◎11  
◎4◎6  
◎3◎5

● 船員動員令・船舶待遇職員令の二勅令公布。船員の身分・待遇を改善(施行は一月二五日)。  
● 軍令部総長と参謀総長、「帝国陸海軍作戦計画大綱」を上奏、裁可を受ける。

21日 先勝 日  
◎10◎8  
◎1◎0  
◎2◎4  
◎1◎7  
◎2◎6

● 小磯首相、第八六議会で「皇国今や興廢の関頭に立つ。生か死か、断乎国体を護持」と施政方針演説。  
● 重光大東首相、衆院本会議で、金光庸夫の質問に「支那の資源戦力強化を推進中」と答弁。



高見順  
……たかみじゅん  
〈明治40～昭和40年〉小説家、詩人、評論家。代表作に「故旧忘れ得べき」、詩集「死の淵より」など。当時39歳。

この日記も、気をつけないといけない。『高見順日記』第三巻 勁草書房

嗚呼！

石井君(註)石井英之助、当時文芸春秋社員)来る。原稿の件、あやまる。富塚博士(註)富塚清、工学博士)が「言論報国」誌上で、日本の軍艦はだめだ、航空機はだめだ等々と激しいことをいっている由。死を賭しての建言だろうが、つとにこういう建言が出なければならぬのだ。日記のことに話が及ぶ。石井君も日記をつけておきたいのだが、いつどんなことから家宅捜索をうけるかもしれない、その際日記が材料になって罪をうけるということになると困るとおもしろい、つけられないでいるという。

一月八日  
富塚博士(註)富塚清、工学博士)が「言論報国」誌上で、日本の軍艦はだめだ、航空機はだめだ等々と激しいことをいっている由。死を賭しての建言だろうが、つとにこういう建言が出なければならぬのだ。日記のことに話が及ぶ。石井君も日記をつけておきたいのだが、いつどんなことから家宅捜索をうけるかもしれない、その際日記が材料になって罪をうけるということになると困るとおもしろい、つけられないでいるという。

ルソン島へ米軍艦隊の天王山  
 飛行機と弾薬  
 船が要る  
 父兄と教導者は海上輸送  
 擴充の緊迫を知れ  
 以上は自衛隊特務隊員の手記  
 各埠頭海軍部所在本會支部出張所へ問合せ  
 東京都丸の内一ノ二帝國生命館 船運管理の要員  
 本會は船員募集管理の要員



## 一億総憤激大会

【伊勢神宮の空襲に報復の決意】一月四日、伊勢豊受大神宮が空襲を受け、これに報復の決意を表すため、一七日午後、東京・日比谷公会堂で、日本言論報国会の主催により「一億総憤激大会」が開かれた。黒龍会の萬生能久は「切腹などでは済まされぬことだ。この戦争に勝つことだけがお詫びの唯一の道」と叫び、満場の共感を求めた。



## 「お山の杉の子」

そのむかし……一月九日、レコード「お山の杉の子」がニッチクから発売になった。少国民文化協会公募制定の「少国民歌」で、作詞吉田テフ子、補作サトウ・ハチロー、作曲佐々木さぐる。歌手は安西愛子と加賀美一郎。国民の間で愛唱され、国民合唱として放送された。「アサヒグラフ」一月二二日号に掲載。

お山の杉の子  
 ミナサンノ  
 ダイスキナ  
 スキノコノウタガ  
 イヨイヨ  
 レコードニ  
 ナリマシタ  
 ドーコレクテツニ

### 船員募集

【一四歳の少年までも動員しようという「朝日新聞」一月二〇日付の船員募集広告。このころ、連日各紙に登場。】  
 まても動員の廣告  
 激戦のルソン島へ兵員・武器を緊急輸送するため、一四歳の少年までも動員しようという「朝日新聞」一月二〇日付の船員募集広告。このころ、連日各紙に登場。

### 過労

【接着剤にささげた人生】一月二日、軍需省大阪工業試験所接着部長 日比野祐理博が過労のために死去。木製航空機用強化木材の接着剤の研究に没頭、日夜精魂を傾けていたが、衰弱が激しかった。なお日比野博士は独身だった。

### 疎開

【空襲を逃れて】東京の本格的空襲は、昭和一九年一月二四日から始まったといえる。都民は元旦からB29の来襲を受け、ほとんど毎日のように警報が発令された。人々は縁故をたよって地方への疎開を急ぎ、ここ長野市にも、都会から多くの人たちがやってきた。このころ、米軍は、まだ軍需工場を爆撃の目標としていたが、一月二七日、銀座と有楽町に投弾、都民に大きなショックを与えた。

撮影・川上今朝太郎



天晴れ一心太助  
 本健一・森夕起子  
 主演

### 天晴れ一心太助

【見るに堪えぬ、と新聞が酷評】一月一日、白系で東宝作品「天晴れ一心太助」が封切りされた。脚色黒沢明、演出佐伯清、主演榎本健一、轟夕起子。「爽やかに笑へる映画がほしいが、このエノケン映画に至っては阿呆らしくて見るに堪へない(中略)今頃かかる桁外れの粗悪品を作つてゐるから映画界は指弾される」(「朝日新聞」映画評より)。「アサヒグラフ」一九年一月二七日、二〇年一月三日合併号に掲載。

### 玄作戦

【昭和二三事典】  
 体当たり特攻の人間魚雷、回天を潜水艦に搭載し、空母など敵の艦隊が停泊している前進基地に接近し、回天で攻撃しようという海軍の作戦。昭和一九年一月二〇日に第一次作戦が、二〇年一月二二日に第二次作戦が決行された。

### 非常袋

非常袋は空襲をのがれて幾日か生きのびるための、命の綱。このころの婦人雑誌がすすめる中身は、煮炊きのいらぬ炒り米(二日分以上)、缶詰、塩、碗と箸、マッチ、ロウソク、下着、それに配給手帳や預金通帳、印鑑など。手製のリュックなどが使われ、必勝袋とも呼ばれた。——東

京都豊島区  
 立郷土資料館蔵

昭和20年……一九四五年

【物価】ビール1本=42銭 コーヒー1杯=10銭 豆腐1丁=5銭

昭和二〇年は現代史の「分水嶺」として記録されよう。すでに太平洋戦争の敗色濃く、東京はじめ全国各地に空襲の惨禍が及び、やがて沖縄戦、「盟邦」ナチス・ドイツの降伏、原爆投下、終戦、連合軍進駐と続き、日本は、いわば「マッカーサーの虜囚」となった。そして二年、廃墟の中に天皇の「人間宣言」があり、新憲法が生まれる。

講談社

定価◎3,300円  
(本体3,204円)

(東)



255436734

17022013